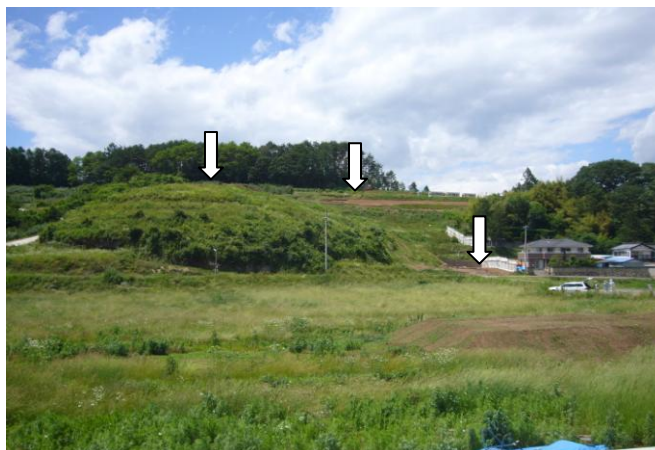


わだ いせき わだ 1 ごうふん たきいせき 和田遺跡 和田1号墳、滝遺跡 説明会資料

（財）長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター

1 遺跡の位置

和田遺跡 和田1号墳、滝遺跡は佐久市湯原に所在します。蓼科山東麓から続く丘陵の末端は、河川の浸食により幾つもの尾根に別れて佐久平に突き出しています。和田遺跡と和田1号墳は尾根の上に、滝遺跡は尾根の裾部に位置しています。遺跡の南側には片貝川流域の平地が広がっています。



矢印 左から 和田1号墳 和田遺跡、滝遺跡

2 和田遺跡

和田遺跡は縄文時代・古代の遺物散布地として知られていましたが、佐久市教育委員会による市道建設地の発掘調査(2009年)で弥生時代の竪穴住居跡が確認されました。東に隣接する中部横断自動車道用地内で長野県埋蔵文化財センターが実施した確認調査(2010年)でも、住居跡が発見され、今回の発掘調査となりました。

調査では、南側斜面の標高 750m 付近の比較的傾斜が緩やかな部分で、弥生時代の終わり～古墳時代初め頃(約 1800～1700 年前)の住居跡が 4 軒 (SB01～04) 見つかりました。後世の耕作で削られて残存状態は良好ではないものの、いずれも隅丸方形(角が丸みを帯びた四角形)の竪穴住居で、床面には煮炊きや明り取りのための炉が見つっています。

4 軒のうちで最大の住居跡 SB03 は、一辺 5 m の床面規模があり、上屋を支える柱 4 本が方形に配列されています。SB03 からは多くの土器が出土しました。地元の土器がほとんどですが、東海地方の特徴をもつ土器も認められ、当時の人々の地域間交流の一端をうかがわせています。

これまでの調査により、尾根南斜面の中腹付近に、弥生時代の終わり～古墳時代初め頃の集落域が帯状に延びていたことがわかりました。眼下の平地から 30m 近く高い場所に集落が営まれたのはなぜか。その意味を考えてゆくことが今後の課題です。



竪穴住居跡 SB03 から土器が出土した様子

3 和田 1 号墳

和田遺跡内には、直径約 20m、高さ 2m ほどの円形の高まりが 1 基存在しています。尾根の主脈から南に舌状に突き出した部分に位置するこの高まりが、和田 1 号墳として登録されています。高まりの頂部や斜面に発掘区を設けて調査を進めてきましたが、埋葬施設や葺石・周溝などの施設、埴輪などの古墳に伴う遺物は見つかりませんでした。古墳によく見られる突き固めた盛土層も認められません。残念ながら、古墳ではないと判断されます。



調査前の和田 1 号墳

4 滝遺跡

発掘区東側の緩やかな斜面から、竪穴住居跡が 3 軒見つかりました。時代別では、古墳時代初めが 2 軒 (SB3・4)、平安時代が 1 軒 (SB1) です。

古墳時代初めの住居跡 2 軒のうち、比較的残りが良い SB4 は一辺 4.5m の隅丸方形で、壁は一番高いところで床面から約 70 cm ありました。遺物はあまり出土しませんでした。和田遺跡よりも少し新しい時期の住居と考えられます。



古墳時代初めの竪穴住居跡 SB4

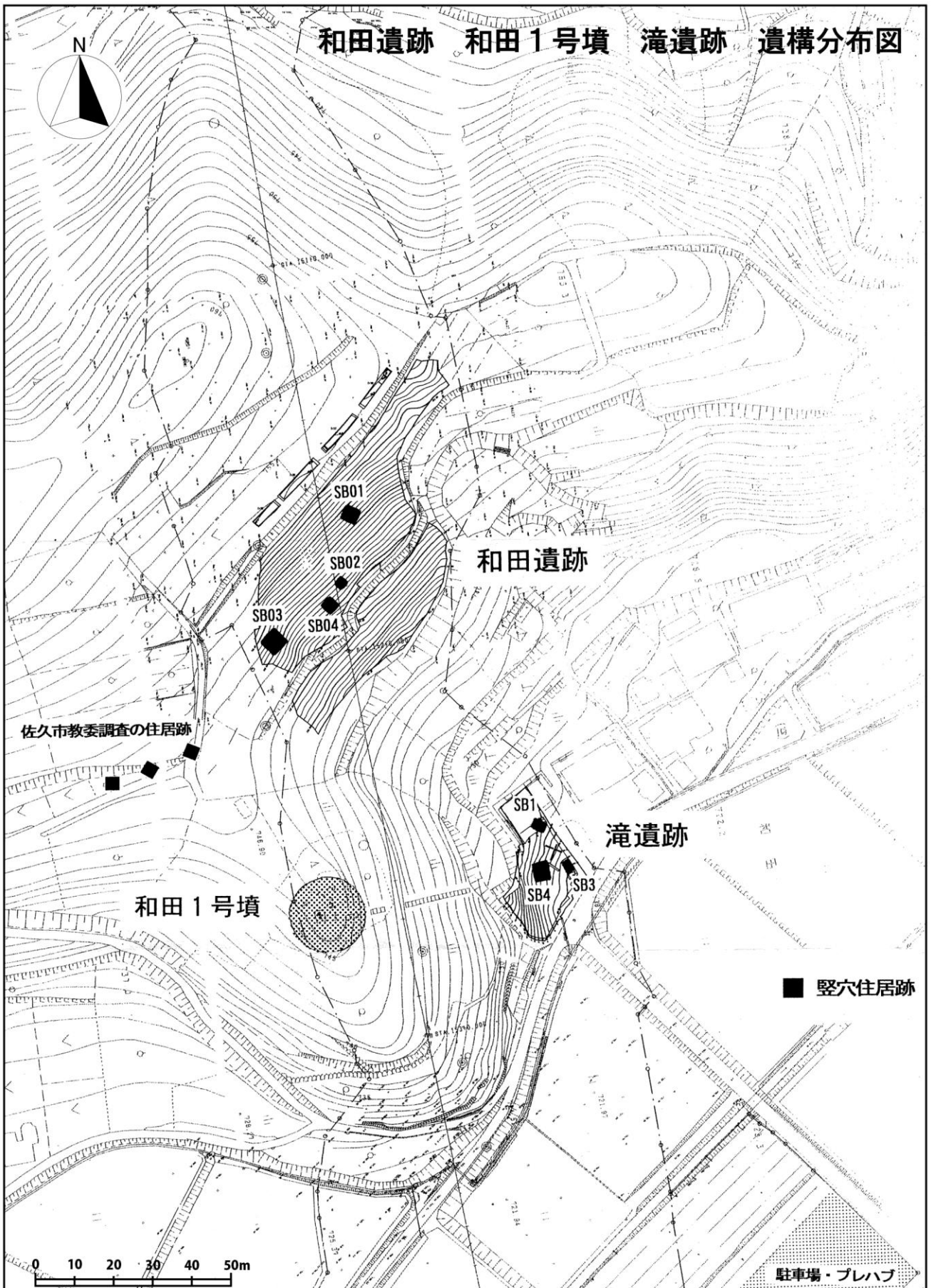
平安時代の住居跡 SB1 は後世の耕作などによって大半が削られていましたが、カマドが残っていました。カマドやその周辺からは甕などの破片が出土しています。

発掘区の西側では、傾斜が急になり、遺構も検出されませんでした。このことから、今回の調査では、集落域の西端を捉えたと考えられます。



SB1 のカマドに残る甕などの破片

和田遺跡 和田1号墳 滝遺跡 遺構分布図



佐久市教委調査の住居跡

和田1号墳

和田遺跡

滝遺跡

■ 竪穴住居跡

駐車場・プレハブ

0 10 20 30 40 50m